

JP120 二津野ダム (ふたつのだむ)

奈良県：十津川村

位置	N 33° 56′ E 135° 46′
面積	230ha

環境構成【ダム湖】

紀伊山地十津川の本流に作られた面積約 200ha のダム湖。

当ダムのある十津川村は奈良県の最南部に位置し、面積は奈良県の約 5 分の 1 を占める日本一広い村である。

東は近畿の屋根大峯山脈、西は伯母子山地に囲まれていて、村の中央部を十津川が北から南へと流れている。

ダム湖周囲の斜面には、かつて薪炭材を採取していたシイ・カシの二次林が豊かに広がり湖面にまで覆いかぶさっていて、ドングリはこのダム湖で越冬するオシドリの食物となり、木陰は天敵から身を守る格好の隠れ場となっている。

ここで越冬するオシドリの個体数は、ダムの上流域、湖面、堰堤下、を含めると 2,000 羽を超えることもあり、国内最大級の越冬地である。



写真提供：岩崎弘典

選定理由

A4i	オシドリ
-----	------

保護指定

法的な担保がない、もしくはわずか（10 パーセント未満）である

保全への脅威

- ・ダム湖の水位変動
- ・大雨による土砂崩れで、水の濁りが解消しない（平成 23 年の大規模水害により、周辺の土砂崩れでダム湖内に土砂が流入したうえ、水が濁り、いまだに濁りが無くなっていない。
- ・レジャーフィッシング(ブラックバス)により、水面上をボートが移動することで、オシドリが休む場所を奪われる

鳥類の個体数、生息環境の現状

- ・ IBA サイトにおける重要な鳥類（IBA 選定基準種）の個体数の変化
各年による変動が大きく比較が困難
- ・ IBA 基準種の個体数のカウント調査実施の有無：有
＜調査データの入手方法＞
環境省 ガンカモ類調査
- ・ IBA 選定基準種の個体数に影響するような、IBA サイト内の重要な生息環境の変化：
変化がある
詳細、具体例等： 水の濁り
- ・ IBA 選定基準種の生息環境：
普通（70～90%が最適の状態）
- ・ IBA エリアの保全管理計画の有無：無

保全活動

- ・ モニタリング調査：実施者（日本野鳥の会奈良支部）
ガン・カモ・ハクチョウ調査（毎年）
ガン・カモ・ハクチョウ類全国一斉調査 2004（奈良県）

見られる鳥

十津川村で見られる鳥類は 37 科 112 種（市町村別鳥獣生息調査報告書；奈良県農林部）である。ここでは留鳥、夏鳥、冬鳥の分類ではなく、このダム湖および周辺で冬期、夏期、通年に見られる鳥として主なものを下記に記す。

通年	カワウ、アオサギ、ダイサギ、トビ、オオタカ、ツミ、ヤマドリ、キジ、アオバト、フクロウ、ヤマセミ、カワセミ、アカゲラ、アオゲラ、コゲラ、キセキレイ、セグロセキレイ、モズ、カワガラス、トラツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カワラヒワ、イカル、カケス
夏期	ハチクマ、サシバ、ジュウイチ、カッコウ、ツツドリ、ホトギス、コノハズク、アオバズク、ヨタカ、アカショウビン、ツバメ、コシアカツバメ、イワツバメ
冬期	オシドリ、マガモ、カルガモ、ノスリ、ビンズイ、カヤクグリ、ルリビタキ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、カシラダカ、ミヤマホオジロ、アオジ、クロジ、アトリ、ベニマシコ、ウソ、シメ
参考	十津川村内の大峯山脈、伯母子山地で見られる主な鳥 クマタカ、オオアカゲラ、ミソサザイ、コマドリ、コルリ、ルリビタキ、メボソムシクイ、エゾムシクイ、センダイムシクイ、キビタキ、オオルリ、コガラ、ヒガラ、ゴジュウカラ、キバシリ

関連団体・自治体・施設等

- ・日本野鳥の会 奈良支部

